

Ⅲ. 応募者のアンケート調査結果からみる マップコンテストの意義と課題

1. はじめに

「地域の安全安心マップコンテスト」では、応募代表者（保護者）に対して、参加児童および保護者の属性や本コンテストへの参加動機などの項目について、アンケートを行ってきた。ここでは、過去10回にわたるコンテスト応募者のアンケート回答をまとめ、本コンテストへの参加動機や重要と思うリスク情報、地域の安全の状態、子供と大人の安全安心に関する認識の違い、マップ作成の意義と問題点について整理してみたい。

2. 増加するグループでの応募、応募者の全国的な広がり

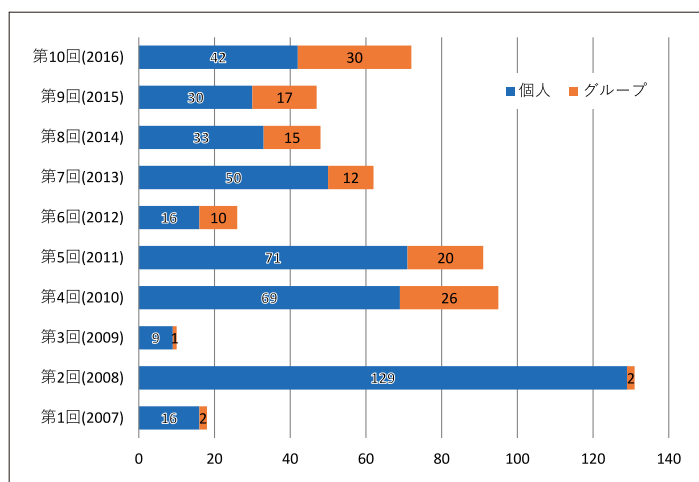


図1 応募者数の推移

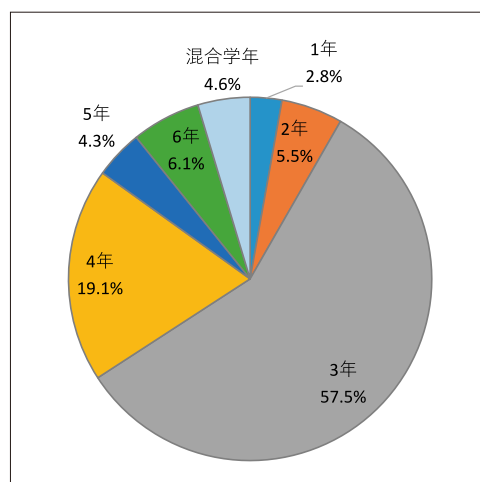


図2 学年別応募者数 (N=603)

過去10回の全応募作品数は603点、参加児童総数は1,131人にのぼる。応募作品数の推移をみると、第6回（2012年）までは100点前後の回もあれば、20点前後の回もあって変動が大きかったが、第7回（2013年）以降は、毎回50点前後で安定的に推移するようになった（図1）。応募は個人によるものが多いが、最近では、グループでの応募が増えている。学年別にみると、3年生の割合（57.5%）が半分を超え、次いで4年生（19.1%）と小学生の中でも中学年の割合が高い（図2）。また、近年のグループ応募の増加に伴い、複数の学年で構成されたグループによる応募（混合学年）も増えてきた。

応募資格は第1回（2007年）では京都市内、第2回（2008年）では京都府内の小学生に限られていたが、第3回（2009年）から国内および国外に応募対象を広げている。いまだ国外からの応募はみられないが、これまでに応募のあった地域は東北地方から九州地方にいたる21の都道府県および、回を追うごとにその数は増しつつある（図3）。

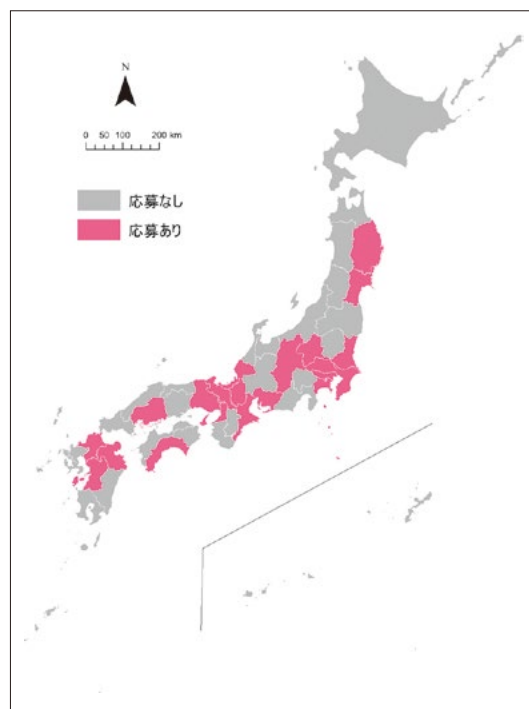


図3 応募者の分布

3. 参加動機は夏休みの課題、地域の安全安心への関心も

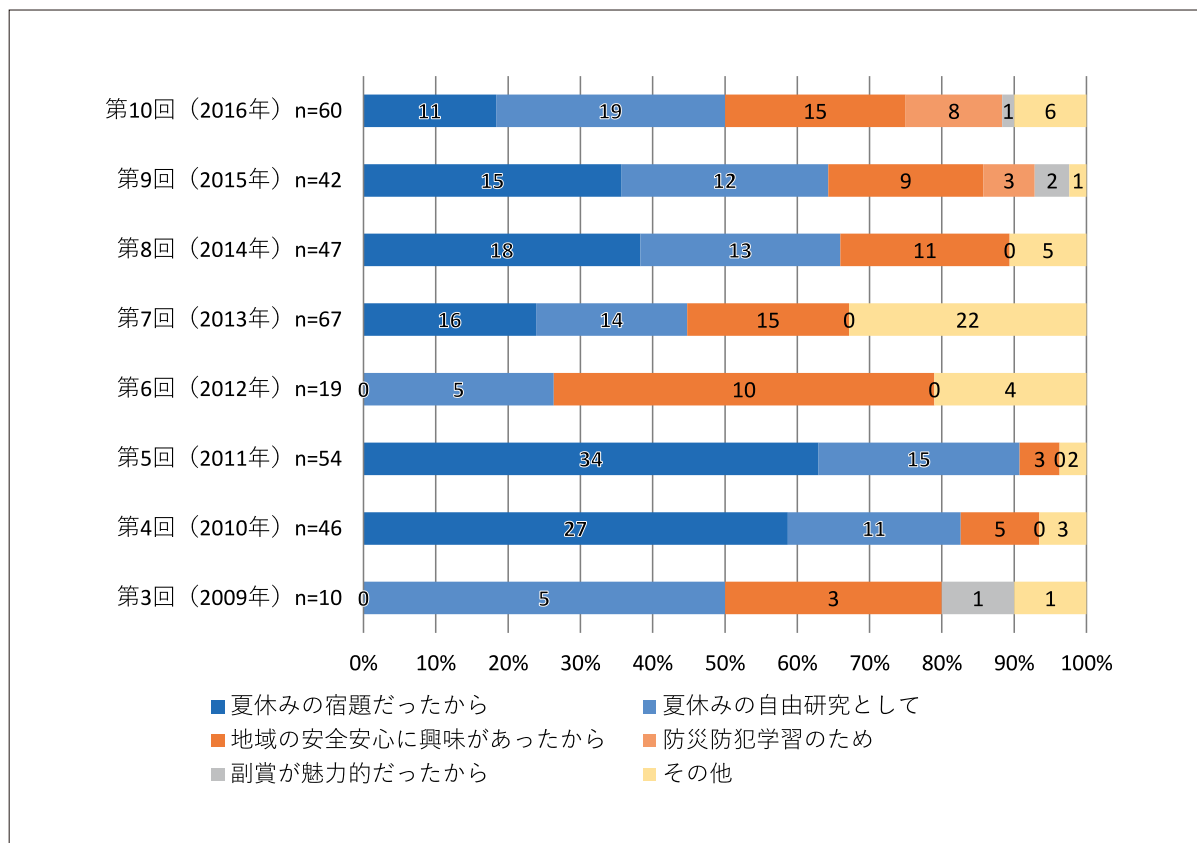


図4 マップコンテストへの参加動機

第3回（2009年）から質問しているマップコンテストの参加動機の内訳についてみると（図4）、半分程度は「夏休みの宿題だったから」「夏休みの自由研究として」のような夏休みの学校の課題として取り組まれたことが分かる。学校の課題から離れた動機としては、「地域の安全安心に興味があったから」の割合が、第6回（2012年）以降高まってきた。これは、2011年に発生した東日本大震災のような大規模な自然災害が、防災意識を高めたことの反映かもしれない。

その他の動機には、「地図が好きでマップ作りをしてみたい」、「親子で近所を調べたい」、「消防署からの勧め」などの回答がみられ、「地域の安全を確認したい」と思ったきっかけとして、引っ越し、通学の開始のような生活の変化や、ケガのような安全を改めて考える出来事などが挙げられていた。

4. 高い関心を示す「犯罪・防犯」情報、近年高まりをみせる自然災害への関心

第3回（2009年）のアンケートから、地域の安全安心マップに掲載すべき情報について質問している。具体的には、以下の選択肢から重要なもの3つを選んで回答してもらった。

- ①火事 ②地震 ③津波 ④火山 ⑤洪水 ⑥大雨・台風 ⑦豪雪
 ⑧土砂災害 ⑨ひったくり ⑩声かけ・不審者 ⑪交通事故
 ⑫交番・消防所 ⑬避難場所 ⑭転倒の危険 ⑮子ども110番の家 ⑯その他

ただし、「③津波」、「④火山」、「⑤洪水」、「⑧土砂災害」は第9回（2015年）以降に追加されたものであり、代わりに「⑥大雨・台風」は第9回から除かれている。

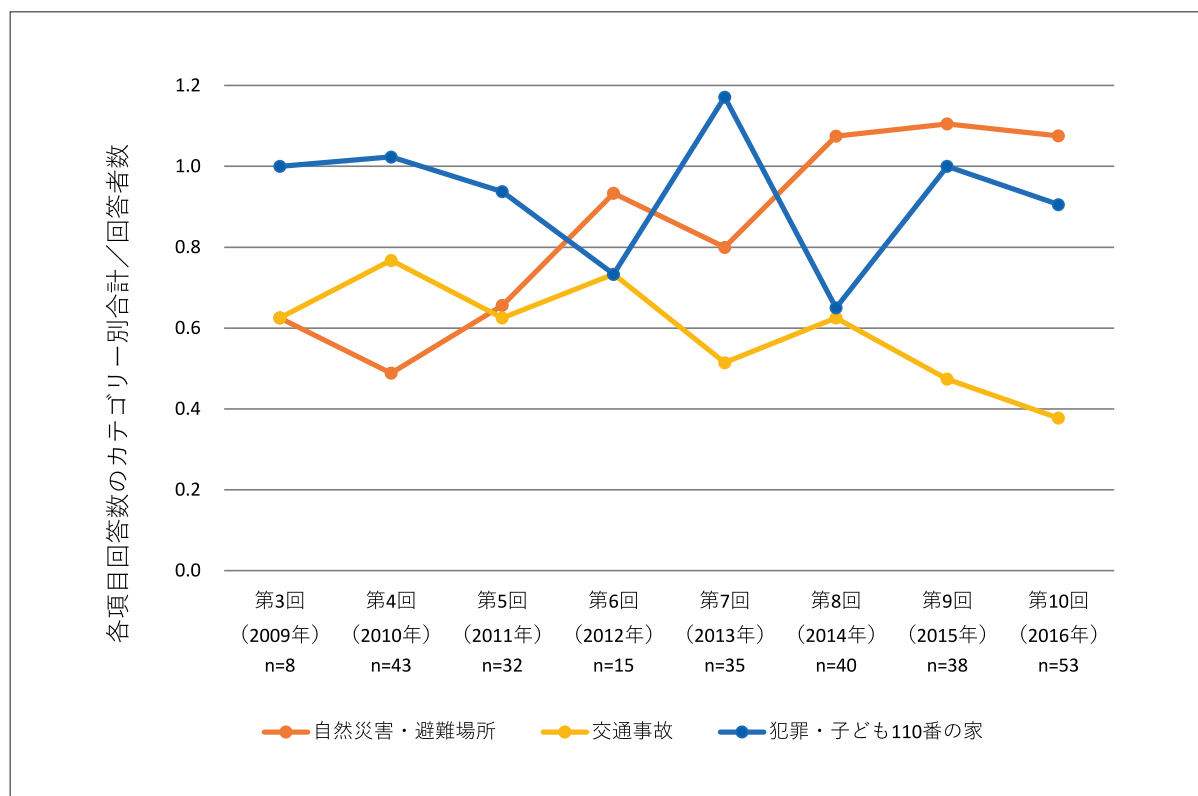


図5 地域の安全安心マップに掲載すべき情報

まず、選択肢を3つのカテゴリーに分類した。②～⑧・⑬を「自然災害・避難場所」、⑪を「交通事故」、⑨・⑩・⑯を「犯罪・子ども110番の家」とした。図5は、各項目回答数のカテゴリー別合計がその年の全回答者数に占める割合を示したものであり、各カテゴリーの関心の経年変化が分かる。各カテゴリーには複数の項目が含まれるため、1.0を超える値を示す場合もある。毎年、「犯罪・子ども110番の家」に関する情報への関心が高い。また、経年変化をみると、近年の自然災害の頻発に伴い、地震、洪水、台風など「自然災害・避難場所」に関する関心が高まりつつあることが分かる。その一方で交通事故の回答は減少傾向を示している。その他、自由回答では「暗い道や空き家」、「病院やAED」などが挙げられた。

5. 身近な地域の安全状態は約半数が「やや危険」と認識

第9回（2015年）のアンケートから、安全安心マップの作成を通じて、地域の安全（安心）の状態についてどのように思ったのかを聞いている。

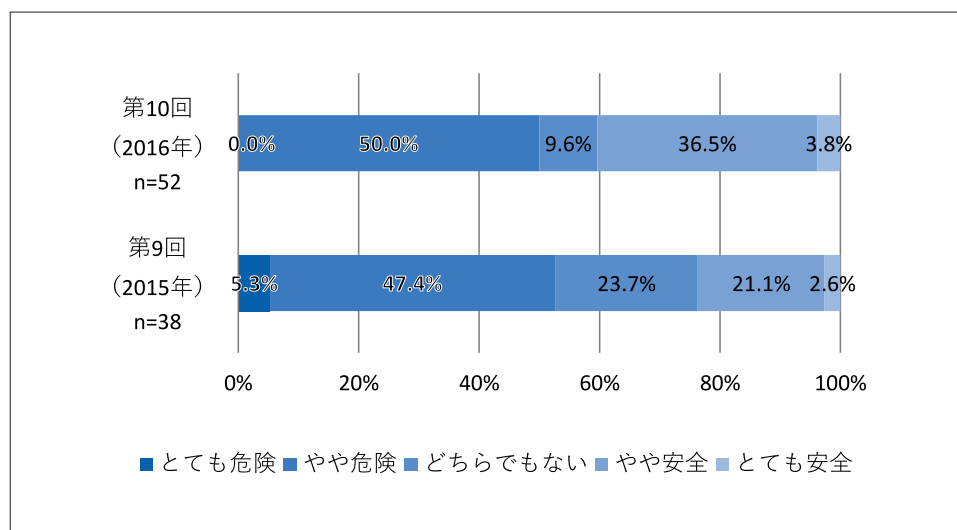


図6 地域の安全（安心）状態について

回答者の約半分は「やや危険」と回答しており、身近な地域の危険性を理解したことが反映されているようである（図6）。さらに、地域の安全安心に関する気づきを具体的に記述してもらったところ、表1のような回答が得られた。

表1 地域の安全安心に関する気づき

項目	記述内容
危険なところ	防犯 <ul style="list-style-type: none"> ・日中でも人通りの少ない道が通学路となっていること。 ・子ども110番の家が近所がないことが判明。
	交通 <ul style="list-style-type: none"> ・交通量が多い道が沢山あるので、事故に注意しなければと思った。 ・住宅街ならではの死角の多さに気づき、出会い頭の交通事故の予見ができた。 ・通学路として使われている道でも車の往来が激しく、路上駐車も多いため、改善が必要だと思った。
	災害 <ul style="list-style-type: none"> ・自宅周辺は安全だと思っていたが、浸水の危険性があることが分かった。 ・避難場所の確認と土砂災害の可能性のある避難場所があることが分かった。
安全なところ	防犯 <ul style="list-style-type: none"> ・登下校の時間帯に老人会の方々が見守って下さって安心できる。 ・子ども110番の家がたくさんある。それだけ人の目がある地域だと思う。
	交通 <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の見守りや、交通安全に対して配慮されている（ガードレール標識など）。
	災害 <ul style="list-style-type: none"> ・土地が低いので洪水が起きやすいと思ったけど、色んな工夫がされていたので安全だと思った。
その他一般	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺が整備工事中なので注意が必要である。 ・防犯カメラを設置することによって子供の安全が守られる。 ・地域でも防災訓練など行われているが、参加者が少ない。危機感が少ないように思う。

6. 一緒に作成することで子供の安全意識を再確認

「地域の安全安心マップコンテスト」では、子供と大人と一緒にマップを作成することが推奨されている。その理由の1つは、子供と大人の安全安心に対する認識の違いを互いに理解し、情報を共有する機会を得ることにある。アンケートでは、子供と大人の間で実際にどのような認識の違いがあったのかを質問している（表2）。

表2 マップ作成における子供と大人の認識の違い

項目	記述内容
子供の認識不足	<ul style="list-style-type: none"> ・子供自身に危険についての知識が少ないと思う。 ・子供たちは、自分の住む町を安全だと思い込んでいたところがあった。 ・小さな路地について危険を意識していない。 ・子ども110番の家など、安全と書かれているとそれだけでその場所が完全に安全だと思い込むようで、子どもの安全への認識の持たせ方は難しいと思った。
大人と子供の認識の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の視線が想像以上に低く、また、視野が狭いことを痛感した。 ・車の運転者からの視線は子供には分からないものなので、危ないと思う場所が違うことが多くあった。 ・安全に関することで目に見える物（ガードレール等）は子供にも見つけられるが、危険な部分は子供には目につきにくいように感じた。 ・私が危険と思っている場所がいくつかあったが、子供はそれほど感じておらず、「こんなもんだ」と思い込んでいた。 ・公衆電話の使い方を子供達は知らなかった。
大人の気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども110番の家に対する興味が強く、子供が注目していることを初めて知った。 ・普段目にする場所なので大人は見落としてしまうポイントが多い中、むしろ子供の方が細かいことによく気づいているなど思った。大人の方が勉強になっていると思う。 ・子供は近所をよく自転車で走ったり、歩いているので子供の方が消火栓の位置や絵を細かく知っていた。大人の方が知らないことが多かった。 ・認識の違いはない。むしろ3年生の子どもたちでも安全や地域についてしっかりと考えることができ、感心した。

この結果をみると、マップ作成を通してそれぞれに様々な「気づき」があったことが分かる。まず、子供の安全安心に関する認識不足が挙げられていて、マップ作成が子供の安全安心に対する関心を高めたり、理解を深めたりしたことが窺える。次に、子供と大人の安全安心に対する具体的な認識の違いに関する記述からは、子供が危険と考える場所や範囲、その度合いなどが大人よりも限られていて、その事実大人が十分に自覚的でなかったことが示唆される。マップ作成は、子供にとっての盲点を大人が再確認する機会となったことが分かる。さらに、子供と大人の視点や経験の違いから、一緒に作業を進めた大人にも新たな発見があったという意見もみられた。このことから、安全安心マップ作りは子供の教育だけではなく、大人の安心安全に関する意識の向上にも役立っていると考えられる。

7. マップ作成の意義、情報更新の課題

アンケートでは、地域の安全安心を考える上で安全安心マップを作成する意義（メリット）や作成上の問題点について、自由回答の形式で質問している。マップ作成の意義として、地図化することで記憶の定着率が高まることや、いざという時の行動に役立てられることなど、積極的な意義を認める様々な意見がよせられた（表3）。問題点としては、マップを作ったことによる安心感や、状況が変化するとマップに示された情報が古くなってしまふという時間の経過による情報の有用性の低下を危惧する意見などがみられた（表4）。

表3 地域の安全安心マップを作成する意義

項目	記述内容
(再)確認・ (再)発見	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心に対して再認識する事ができる。 普段見過ごしていた標識や設備に対する再認識ができたことが有意義だったと思う。
親子で認識や 情報を共有	<ul style="list-style-type: none"> 子供と一緒に地域地図を持ちメモを取りながら歩いた。子供の目線で見ることが出来た。色々な話を楽しくしながら地域周辺の安全安心を考える良い機会になった。 子供との安全に対するギャップを埋める良い機会になった。今回は「子供110番」をテーマにし、作成したが、メリットだけでなく、デメリットの発見にもなった。
学びや考える機 会・意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 普段意識しない範囲にまで、広く深く考えるよいチャンスになる。 「気をつける」とは具体的にどのようなことかという点について、話し合う機会になり問題意識を高めることができたと思う。 「安全」への意識が変わった。子ども110番の家の看板は今まで見ているようで、見逃していた。
有事の備え・訓練	<ul style="list-style-type: none"> 非常時における子供達の早い段階での的確な判断を促す事が出来る事だと思う。 安全安心マップを作成することで、防災・防犯に対する意識が高まり、万が一災害や犯罪に巻き込まれるようなことがあった時、迅速かつ的確な行動をとるための助けになると思う。
地図化による 理解の深まり	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身でマップを作成することにより、ただ見るだけでは気付かないこともしっかりと記憶に残り、いざというときに避難行動がスムーズに行えると思う。 子供達にとって配布されたものを見るよりも、自分達で考え、作成したことによって意識も知識も高まり身に付いた。
授業の教材	<ul style="list-style-type: none"> お互いの考えや情報を交換することで、防犯意識が高まると思うので、学校でグループ毎に取り組んで、グループで地図を作成できると良いと思った。

表4 地域の安全安心マップを作成する際の問題点

項目	記述内容
個人情報の 管理面の危惧	<ul style="list-style-type: none"> 地域の情報は必要だが個人が特定されることに関しては配慮が必要。 住居や行動範囲など個人情報が大量に出る。
学校や地域 との連携	<ul style="list-style-type: none"> マップを作ったことによる安心感。その後の活用が大切。 気付きはあっても、改善には限界があり、より多くの協力が必要だと感じる。 MAPは地域（自治会）などでも共有できるともっとよい。
情報更新の問題	<ul style="list-style-type: none"> 一回作ったら安全安心な気持ちになるので、年に一回の見直しや追加が必要だと思う。 時々刻々と条件が変わっていくので、マップを日々更新していったほうがよい。 夏休みに作成したので、実際の登下校とは交通事情が違っていてもっと問題が見つかるのでは？と思った。
マップ作成の 際の苦労	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心マップというテーマが広すぎて、テーマをしぼりづらかった。 地域の資料が集めにくかった。 子供に中心になってマップを作成してもらいたいと思っても、データを集めたり、マップを描いたり作業は手助けが必要なため親の意見が中心になってしまう。 作成のため、うろろしている様子が逆に自分たちが不審者に思われてしまった。

8. より積極的な広報活動、さらなる情報発信の必要性

第9回（2015年）のアンケートから、マップコンテスト事業に対する意見・要望を質問している。いただいた要望や意見は、応募時期や応募条件に関するもの、テーマ、広報などに分けられた（表5）。いただいたご意見を参考に、今後の「地域の安全安心マップコンテスト」に関するよりよい広報・情報発信を進めていきたい。

表5 マップコンテストに対する意見・要望

項目	記述内容
応募時期	<ul style="list-style-type: none">もう少し早い時期に応募があればよいと思う。応募時期を10月末ぐらいにしてもらった方が夏の暑い日をさけて調査に行けると思う。夏の時期で調べ学習がゆったり出来る。
応募条件	<ul style="list-style-type: none">応募条件の紙の大きさは自由にして欲しい。個人のみでなく、小学校単位で申し込みがあれば良いと思う。グループの場合、5人以内だと、学校単位の参加は難しくどうしても個人参加になる。地域のマップ作りは学級や学校単位の方が参加しやすいので、5人以内の規定を外して欲しい。
テーマ	<ul style="list-style-type: none">安全安心マップというテーマ範囲が広すぎて、テーマを絞り辛かった。AEDをテーマにするのが適切なのかよく分からなかった。防犯や災害という意味では違うが、心不全が起きた際の「安心」のために作成した。
広報	<ul style="list-style-type: none">幅広く（新聞など）募集してくれるといいなと思った。授業等でも活用できる内容なので、他府県にももっと情報があればと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none">学術的な目的やアイデア・着眼点を重要視するのであれば、コンテスト形式が良いかもしれないが、作業の中で安全安心を子供たちに学ばせる目的なのであれば、ワークショップ形式などの方が良いかと思う。作った安全マップがコンテストに出せると知り、楽しんで作成できたことがよかった。

9. おわりに —身近な地域を知るきっかけとして—

防災教育や地域防災活動推進の一助として、マップコンテストを毎年開催しているが、アンケートを改めて見直してみると、安全安心マップ作成の意義として、「自分が生活している地域の事をよく知る機会だと思う」、「地域を知った」、「地域への興味がわいた」など安全安心を入り口に身近な地域への関心が高まった点を評価する意見が多くあることに気づかされる。安全安心マップ作成を通して身近な地域を知り関心を深めることが、自分自身の安全に加えて地域の歴史や文化を災害から守ろうとする地域の防災意識の醸成にもつながることが期待される。